

平成25年11月28日

平成25年度 学校関係者評価報告書

学校法人三友学園
専門学校岡山情報ビジネス学院
自己点検・評価委員会
学校関係者評価委員会

学校法人三友学園 専門学校岡山情報ビジネス学院 自己点検・評価委員会 学校関係者評価委員会は、平成24年度自己点検・自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いました。このことにつきまして以下のとおり報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会委員

学外委員(順不同)

- 川口 光彦 氏
医療法人川口内科 川口メディカルクリニック 院長・理事長
- 小川 昌幸 氏
平成14年3月岡山情報ビジネス学院 情報システム学科卒業
メディアインクルーズ株式会社 代表取締役社長
- 本嶋 陽一 氏
森の邸宅 彩音 -ANON- 支配人
- 宮垣 嘉也 氏
岡山理科大学附属高等学校 校長

内部委員

- 宮脇 敏廣 理事 学院長 委員長
- 高岡 信吾 統括部長
- 宮岡 良次 事務局長
- 大西 豊 参与 事務局次長
- 玉置 順一 教務課長 書記

2. 学校関係者評価委員会議事録

- 開催日時：平成25年11月21日(木)16時～17時
- 開催場所：5階会議室
- 出席委員：川口光彦、小川昌幸、本嶋陽一、宮垣嘉也、宮脇敏廣、高岡信吾
宮岡良次、大西豊、玉置順一

■学園側出席者：安藤 喬(常務理事)

■議 事：

・学校概要説明

9学科2コース(来年度12学科2コース)の案内と在学生数874名
資格実績・就職実績の表現方法についての説明
検定(合格率・取得率)・就職(内定率・就職率)の違いについて
それぞれの実績について、本校は正直に打ち出している旨の説明
特に高校生が迷わないように数字を表現している

・自己点検評価結果の要旨説明

専門学校(専修学校)は1条校ではないので国からの補助金は出ない

「職業実践専門課程」立ち上げの主旨としては、専門学校として社会人教育の質の向上を図ることを目指している

2031年までの18歳人口の減少について、2018年までは人口の変化はないが、以降減少する見込みである。従って大学・短大・専門学校によっては淘汰される可能性がある

今年度の重点課題について

・組織改編と内部方針の転換

→今年度より組織改編を実施中である

→来年度に向け新設3学科2コースの立ち上げを行っている

・教職員の資質向上について

全国専門学校教育研究会(約100校)主催の研修会への参加をしているが、それ以外の研修会への参加もしている。

退学者数の公表について、退学防止に向けての取り組みに繋げる。特に本校は担任制をとっているが、常勤率が高く毎日の出欠だけではなく心のケアも行っている。

・意見交換、質疑応答

i. 4年制大学・短期大学、そして他の専門学校との比較ができないが、本校卒業生を採用しての印象としては、職場で厳しく指導をすると、その指導について親ではなく学校の担任に報告をしているとのこと。これは担任教師によるきめ細かいアフターケアをしていると実感すると述べられた。

ii. 小川委員は本校卒業生でもあるので実体験として、大学教授は専門家ではあるが社会人教育となれば専門学校の先生の方が明らかに質の高さを感じるとのことであった。担任制を取っているからこそ、退学者・休学者の抑止に繋がっていると感じるとのことであった。

iii. 採用実績として本校のみなので、他校とは比較できないが、本校OBは頑張ってくれているとのこと。

質問:本校退学者数について他校より率が低いとのことであるが理由は?

回答:入学前にしっかり考えて入学するように勧めている。

そのため、AO入試をしないことと、就職実績等を公表している。

iv. 担任制は今の学生には必要なことである。教科指導・生活指導だけではなく、特に心のケアについてはより深くかかわる必要があるとのこと。これは担任教師の良し悪し、常勤か非常勤かということも関わっている。担任力によって退学状況も変わってくる。高校の現場でも退学率3%を目指しているが、現状は4~5%であれば良い方とのことであった。

上記意見交換中に、担任制の利点の話と共にそれによる教師への負担の話もあり、学生の満足度を上げるために、教師の質向上と共に、教師の負担減少にも取り組む必要があるとの認識も確認されその努力が望まれる。